

ともに考え、ともにつくる美しい県土

うつくしま建設プラン

21



概要版

2001年12月

福島県土木部

「ともに考え、ともにつくる美しい県土」をめざして



私たちは今、20世紀の「成長の時代」から21世紀の「成熟の時代」を迎え、まさに時代の転換期の入り口に立っています。

21世紀の「ふくしま」は、7つの生活圏を基本とした多極ネットワークや情報通信技術を高度に活用したネットワークに加え、「人」と「人」、「地域」と「地域」、「住民」と「行政」などのさまざまなネットワークの考え方を社会全体に拡げる新しいネットワーク型の社会をめざしています。

今後の住宅・社会資本の整備は、今までよりさらに重点的かつ効果的に進めていくとともに、住民ニーズを十分把握して、県民生活の利便性や快適性、安全性のより一層の向上を図ってまいりたいと考えております。

また、ユニバーサルデザインの視点に立ったまちづくりや環境との共生に一層配慮するなど、くらしの豊かさを実感できる施策を推進してまいります。

「うつくしま建設プラン21」は、「うつくしま21」の部門別計画として、県民の立場や地域づくりという観点で、新しい価値観に立った21世紀初頭の住宅・社会資本整備のめざすべき方向性を示しています。

これからも県民の皆様とイコールパートナーの関係を保ち、「ともに考え、ともにつくる美しい県土」を基本目標に、「交流を促進するネットワークづくり」「安全で安心できる生活環境づくり」「個性と魅力ある美しいまち（地域）づくり」などを柱として、事業の効率化・重点化・透明性に配慮しながら、良質な住宅・社会資本の整備を推進してまいります。

また、本県初のジャパンエキスポとして開催した、「うつくしま未来博」につきましては、「自然との共生」、「循環の理念」、「参加と連携による地域づくり」などのメッセージをアピールすることができましたが、こうした未来博で発信した21世紀の新しい都市の理念や考え方を継承し、新たな価値観に立った事業を展開してまいりたいと考えております。

建設行政に課せられた課題は、いずれも県民生活に関わりの深いものばかりではありますが、この「うつくしま建設プラン21」により、本県の建設行政に対する御理解を深められるとともに、今後なお一層の御支援、御協力を賜われますようお願いいたします。

平成13年12月

福島県知事 佐藤 栄 佑 久

目次

| | |
|-----------------------------------|----|
| はじめに | 1 |
| 時代潮流の認識・本県の県土構造と特性 | 2 |
| 福島県「7つの生活圏と6本の連携軸」 | 3 |
| 「うつくしま21」の基本構想 | 4 |
| 「うつくしま建設プラン21」の基本構想 | 5 |
| 21世紀の住宅・社会資本整備の基本的な考え方・施策展開の基本テーマ | 6 |
| 基本テーマのイメージ | 7 |
| テーマ別整備計画の施策体系 | 8 |
| 「うつくしま建設プラン21」の代表的な指標 | 10 |
| 計画の進行管理・県民のニーズに対応するために | 12 |
| うつくしま未来博の理念の継承 | 13 |
| 生活圏域別計画の概要 | 14 |

1

計画策定の趣旨

- ◇時代の潮流変化に的確に対応し、新しい時代にふさわしい県土づくりを進めるため
福島県の新しい長期総合計画「うつくしま21」
[地球時代にはばたくネットワーク社会
～とものつくる美しいふくしま～]
を実現するための部門別計画として、21世紀初頭における本県の住宅・社会資本整備の方向性を明らかにします。

2

計画の特徴

- ◇分かりやすい目標設定
県民から見て分かりやすいものとするため、指標を導入しています。
- ◇地域社会づくりの視点
個性と魅力ある持続的発展可能な地域社会づくりを重視した視点としています。
- ◇県民ニーズの反映
県民のニーズ、時代潮流の変化を反映したテーマ毎に、関連する分野の施策を総合的にまとめています。

3

計画の期間

- ◇本計画は、21世紀初頭の10年間(2001～2010年)を計画期間として平成22年度(2010年度)を目標年度としています。

4

計画の構成

本計画は、次の3部門で構成しています。

- ◇「基本構想」
本計画の基本目標及び施策の基本的な考え方を示しています。
- ◇「テーマ別整備計画」
21世紀の美しい県土づくりのために取り組むべき様々なテーマに対し、事業の連携強化をはかり取り組む基本計画を示しています。
- ◇「生活圏域別計画」
県内7つの生活圏がそれぞれ個性ある発展をしつづけるために取り組むべき課題や主要な施策を示しています。

時代潮流の認識

(1) 社会の成熟化

- 人間の尊重
- 地方分権の進展
- 少子・高齢社会、人口減少社会
- 価値観や生活様式の多様化

(2) 環境との共生

(3) 大交流・大競争の時代

(4) 情報化の進展

本県の県土構造と特性

全国第3位の広大な面積を有し、南北に縦断する奥羽山脈、その東の阿武隈高地により、浜通り、中通り、会津地方という風土の異なる3つの地域に分けることができます。緑豊かな山並みや裾野に広がる田園風景、猪苗代湖、阿武隈川等の豊かな水をたたえる湖沼や河川、太平洋に臨む美しい海岸線等それぞれの地域が特色ある豊かな自然に恵まれた美しい県土を有しています。

また、東北地方の南端に位置し、東北新幹線、東北自動車道、常磐自動車道、磐越自動車道の高速自動車道に加え、「あぶくま高原道路」が一部開通したことにより、空の玄関口である福島空港と直結するなど、高速交通体系が発達し、高いポテンシャルを有しております。さらに、太平洋に面する小名浜港は国際貿易港として背後地の整備と共に発展しており、陸、海、空から自由にアクセスできる広域交流機能の整備が進んでいます。

○浜通り地方

浜通り地方は、阿武隈高地と太平洋に面した地域で、河川は阿武隈高地を源としてすべて太平洋にそそいでいます。集落はこれら流域全体に沿って発達し、阿武隈高地では山の恵みを、また太平洋に面した温暖な平地では、豊かな海の恵みを受け、自然と共生したくらしが営まれています。

○中通り地方

中通りは、奥羽山脈と阿武隈高地に挟まれ、南から北に縦走する阿武隈川に沿った盆地に、福島市、郡山市、白河市のような都市が発達してきました。新幹線、高速道路、空港等の交通基盤が発達し、仙台市や首都圏等との間に大きな人と物の流れが生まれています。

○会津地方

会津地方は、奥羽山脈と越後山脈の間の地域で、磐梯山、猪苗代湖や尾瀬に代表される美しい自然に恵まれています。人々は主に会津盆地や、阿賀野川水系の河川流域に沿った低平地に農村集落を形成してきました。会津地方は積雪が多いことから建築形態や屋敷林にも工夫が見られる等、美しくも厳しい自然の中で独特の豊かな生活が育まれています。

福島県「7つの生活圏と6本の連携軸」

会津地域
美しい自然と高度先端技術が調和した質の高い歴史文化交流圏

南会津地域
豊かな自然と人々のくらしが調和した癒しの定住・交流圏

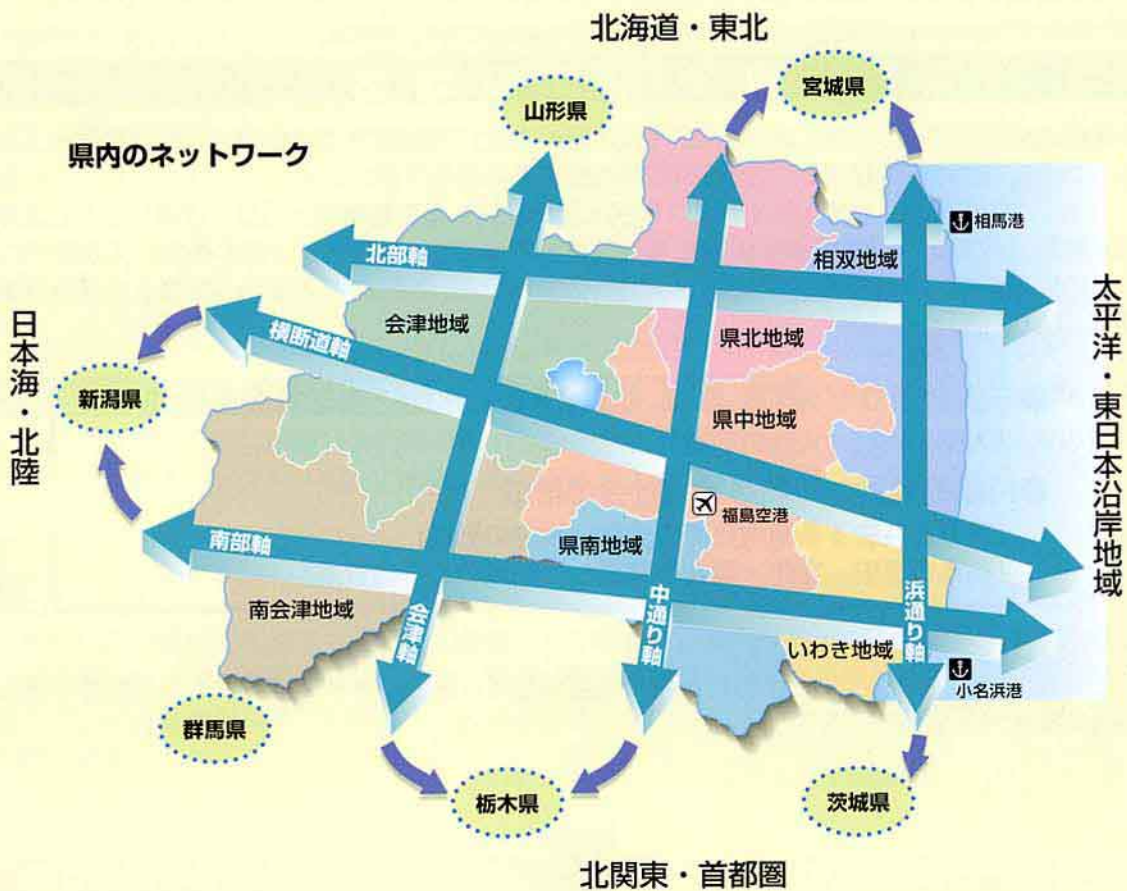
県北地域
自然の恵みと都市の魅力が調和した学術研究文化交流圏

県中地域
恵まれた自然と多様な都市機能が調和した産業国際交流圏

県南地域
きらめく自然とうるおいのあるくらしが調和した源流交流圏

相双地域
輝く自然と特色ある産業が調和したゆとりのある快適交流圏

いわき地域
多彩な自然と快適なくらし、活力ある産業が調和した海洋文化交流圏



会津軸
国際的なリゾート・観光地域として新しい国土軸の一翼を担う地域であり、豊かな自然環境を生かしながら、諸機能の集積を図る軸

中通り軸
新しい国土軸の中央部のルートであり、都市集積を活用しながら、諸機能を図る軸

浜通り軸
高速交通網の整備が進展しつつあるのを踏まえ、新しい国土軸の一翼を担う地域として、諸機能の集積を図る軸

北部軸
南東北中枢広域都市圏構想等により本県北部の連携を図るとともに、南東北との交流を担う軸

横断道軸
県内各地域の横の連携を図るとともに、太平洋と日本海を結ぶ多様な交流を担う軸

南部軸
21世紀FIT構想等により本県南部の連携を図るとともに、北関東との交流を担う軸

基本目標

地球時代にはばたくネットワーク社会 ～ともにつくる美しいふくしま～

21世紀の「ふくしま」は、新しいネットワーク型の社会です。

そこでは、七つの生活圏を基本とした多極ネットワークや情報通信技術を高度に活用したネットワークに加え、「人」と「人」、「地域」と「地域」、「住民」と「行政」などのさまざまなネットワークが多彩に展開しています。

「ふくしま」で活動するさまざまな主体が、水平的な広がりの中で、相互に結び付きを深めながら躍動する社会、この計画ではこのような新しいネットワーク型の社会をめざします。

県づくりの理念

本県のめざす新たな社会システムは、行政のみの努力で構築できるものではなく、県民一人ひとりや民間諸団体の活動があってはじめて実現できるものです。

「美しいふくしま」の実現に向けて、県民・民間団体、市町村と県が相互に連携し協力しながら効果的に県づくりを進めるためには、県全体として県づくりの理念を共有することが必要です。

この計画では、本県の特性や、新しい世紀の時代認識を踏まえ、「人」と「地域」の可能性の発揮という側面から、

●一人ひとりが大切にされ、いきいきと生活できる社会の形成

【人間・人格・人権の尊重】

●持続的発展が可能な地域社会の形成

【自然と共生する環境負荷の少ない社会の形成】

【独自の歴史・文化・個性を尊重した地域づくりの推進】

を県づくりの理念として掲げます。

これは、県民、民間団体、市町村と県が相互に連携し協力しながら、県づくりを進める際の共通の考え方となるものです。



21世紀の「ふくしま」のイメージ

この計画では、21世紀のふくしまのイメージを、「人」「暮らし」「産業」「環境」「地域」の5つの側面から描いています。

- 人** 多様で主体性を持った個性が躍動し、その能力を十分に発揮できる「ふくしま」
- 暮らし** 暮らしの豊かさをより積極的に味わうことのできるゆとりある「ふくしま」
- 産業** 新しい時代にふさわしい創造的で活力ある産業が展開する「ふくしま」
- 環境** 自然と共生する地球にやさしい「ふくしま」
- 地域** 一人ひとりの積極的な参加で地域の個性を磨く、魅力あふれるふるさと「ふくしま」

「うつくしま建設プラン21」の基本構想

計画の基本目標

ともに考え、ともにつくる美しい県土

この基本目標の実現に向けて、交流を促進するネットワークの整備や少子・高齢社会を見据えた安全で安心できる生活環境づくり、個性と魅力ある美しいまち（地域）づくりを重点かつ効果的に進めるとともに、地域の暮らしに身近な基盤づくりについてもきめの細かい対策を進めます。

21世紀の住宅・社会資本整備の基本的な考え方

これからの住宅・社会資本の整備は、地方分権の流れの中で、これまでのような全国一律で画一的な進め方でなく、真に地域で必要なものを、地域の人々や関係する各種機関と「ともに考え、ともにつくる」ことを念頭に、すべての施策に取り組みます。

基本目標である「ともに考え、ともにつくる美しい県土」を達成するために、次の4つの基本的考え方のもとに各種施策を展開します。

県土のグランドデザインに立ったより計画的な事業の展開

持続的発展が可能な地域社会の形成という視点で、大量廃棄社会から循環型社会に対応した住宅・社会資本の整備を計画的に進め、美しい県土づくりを推進します。

重点・効果的な事業執行

厳しい財政状況にあっても、県土の骨格となる幹線道路網の整備や県民の生命・財産を守る河川の整備などの根幹的な事業、また、県民の生活に密着した生活基盤の整備などは重点的に進めていく必要があります。必要なものはこれまでの整備に比べて多少時間はかかっても着実に進めます。

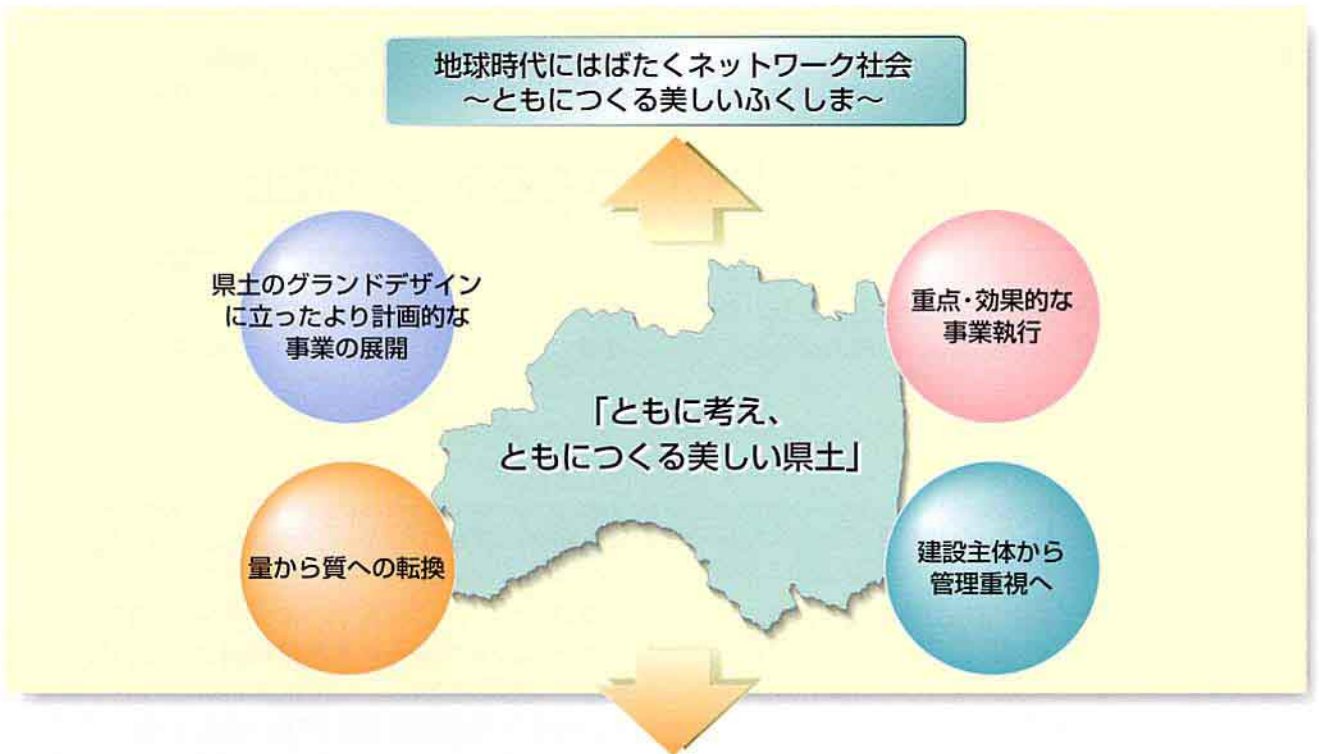
量から質への転換

これからの少子・高齢社会を念頭において誰にとっても使い勝手のよい、ユニバーサルデザインの理念や、将来の維持管理を視野に入れた耐久性の高いライフサイクルコスト重視の視点で良質な社会資本を整備します。

建設主体から管理重視へ

本県の住宅・社会資本は、まだまだ整備を進めなければならない状況にあります。一方、高度成長期に整備した多くの社会資本ストックが、次々と更新期を迎えることとなるため、より適正な管理や計画的な更新が必要になってきます。

既存ストックを適切に維持管理し、長期にわたって有効活用を図ります。



施策展開の基本テーマ



基本テーマのイメージ

交流を促進するネットワークづくり



常磐自動車道



福島空港

安全で安心できる生活環境づくり



堀川 平成10年8月末豪雨水害



堀川 河川改修後

個性と魅力ある美しいまち(地域)づくり



公共空地緑化作戦(逢瀬川)



電線共同溝 須賀川三春線

施策展開のしくみづくり



流域連携



交流活動

基本目標である【ともに考え、ともにつくる美しい県土】を達成するために、4つの基本テーマ(柱)のもとに各種施策を展開します。

1. 交流を促進するネットワークづくり

1) 広域交流を促す幹線道路網と生活環境を高める地域道路網の整備

- ① 広域的な連携交流を促進する道路整備
- ② 地域づくりを支援する道路整備
- ③ 物流拠点のネットワーク強化

2) 国内外の交流を活発化する空港・港湾の整備

- ① 国際交流を支援する福島空港の機能拡充
- ② 地域産業の振興と国際物流を支える港湾整備
- ③ 水産業振興を支える漁港整備

2. 安全で安心できる生活環境づくり

1) 安全、安心な生活環境の創出

- ① 安全で信頼性が高い道路整備
- ② 冬期交通の確保
- ③ 交通安全対策の推進
- ④ 治水施設の整備促進
- ⑤ 都市における浸水対策の強化
- ⑥ 波浪や高潮に対する海岸施設整備
- ⑦ 土砂災害を防ぐ砂防施設の整備
- ⑧ 良質な住宅・建築物の整備促進

2) 身近な生活環境の質の向上

- ① ユニバーサルデザインへの対応
- ② 快適な歩行空間の整備
- ③ 少子高齢社会に対応した住宅の整備
- ④ 人にやさしい建築物等の整備の推進
- ⑤ 自転車利用空間の創出
- ⑥ 生活に密着した基盤の改善

3) 維持管理の充実

- ① 道路施設の維持管理
- ② 河川・ダム・砂防施設等の維持管理
- ③ 空港・港湾・漁港施設の維持管理
- ④ 都市公園の維持管理
- ⑤ 下水道施設の維持管理
- ⑥ 県有施設の適正管理の推進

4) 危機管理対策の強化

- ① 危機管理体制の充実・強化
- ② 都市防災機能の充実
- ③ 緊急避難・輸送路の確保
- ④ 港湾・漁港の耐震強化岸壁の整備
- ⑤ 住宅・建築物の耐震性能の向上

3. 個性と魅力ある美しいまち(地域)づくり

1) 自然・景観との調和(環境との共生)

- ①自然環境や景観に配慮した道路整備
- ②環境に配慮した河川整備
- ③自然豊かな海岸保全のための施設整備
- ④自然環境共生型のダムの整備
- ⑤環境に配慮した砂防施設整備
- ⑥都市における緑地の保全と緑化の推進
- ⑦緑とオープンスペースを確保する都市公園等の整備
- ⑧建築景観の向上

2) 環境負荷を軽減する施策の推進(循環型社会の形成)

- ①流域連携による水循環・水環境の創出
- ②建設リサイクルの推進
- ③下水汚泥の減量化・リサイクルの推進
- ④環境に配慮した住まいづくりの支援
- ⑤環境負荷に配慮した県有施設整備
- ⑥県管理道路への新エネルギーの導入
- ⑦社会資本ストックの有効活用
- ⑧住宅ストックの活用

3) 癒しの空間の形成

- ①癒しのみちづくり
- ②癒しの川づくり
- ③癒しの都市の緑(小さな森)づくり

4) 都市部の多様な豊かさを享受できる施策の推進

- ①都市計画行政の推進
- ②総合的な土地利用
- ③都市活動を支援する道路整備
- ④市街地整備
- ⑤快適な生活環境を確保する下水道整備の推進
- ⑥中心市街地居住の推進

5) 豊かな自然環境と共生した中山間地域の施策の推進

- ①交流活動を支える道路網の整備
- ②安全で安心できる生活環境の整備
- ③定住促進に資する居住環境の整備

4. 施策展開のしくみづくり

1) 住民参加のしくみづくり

- ①双方向型行政の推進
- ②流域連携の推進

2) マネジメントサイクルの確立

- ①公共工事と発注者責任
- ②公共事業評価
- ③土木ITプラン21の推進
- ④公共工事コスト縮減の推進
- ⑤計画的な用地取得の推進

3) 技術の向上と人材育成

- ①経営力・技術力の強化と技術者の育成
- ②技術情報の発信と技術力の向上
- ③河川流域総合情報システム等の充実
- ④道路情報システムの充実

4) 計画の進行管理

「うつくしま建設プラン21」の代表的な指標

第1節 交流を促進するネットワークづくり

| 指標名 | 単位 | 現状 (H12) | 目標指数 | | うつくしま 21の指標 |
|---|----|-------------|---------------|---------------|----------------|
| | | | 中間年度 (H17) | 目標年度 (H22) | |
| 1. 広域的な交流を促す幹線道路網と生活環境を高める地域道路網の整備 | | | | | |
| 7つの生活圏の中心都市の平均所要時間 | 分 | 85分 | 83分 | 77分 | 代表 |
| 30分以内にICにアクセスできる市町村数 | 箇所 | 58 | 70 | 73 | 代表 |
| 大型トレーラーが自由に通行できる指定道路の整備延長 | km | 277km | 450km | 700km | 重点 |
| 2. 国内外の交流を活発化する空港・港湾の整備 | | | | | |
| 小名浜港の港湾取扱貨物量 | 千t | 13,152千t | 16,000千t | 30,000千t | 重点 |
| 相馬港の港湾取扱貨物量 | 千t | 4,955千t | 5,000千t | 10,000千t | 重点 |

第2節 安全で安心できる生活環境づくり

| 指標名 | 単位 | 現状 (H12) | 目標指数 | | うつくしま 21の指標 |
|---------------------------------------|-----|-------------|---------------|---------------|----------------|
| | | | 中間年度 (H17) | 目標年度 (H22) | |
| 1. 安全、安心な生活環境の創出 | | | | | |
| 落石の恐れがある危険箇所の解消率 | % | 11% | 18% | 26% | |
| 河川改修率 | % | 44% | 47% | 49% | 代表 |
| 土砂災害の危険から保全した住宅戸数 | 戸 | 11,601戸 | 12,500戸 | 13,400戸 | |
| 建築物完了検査済証交付率 | % | 61% | 80% | 90% | |
| 2. 身近な生活環境の質の向上 | | | | | |
| 高齢者や障害をもった人が安心して通れるように段差等を改善した歩道の整備延長 | km | 182km | 320km | 440km | |
| 中心市街地区域の透水性舗装の歩道延長 | km | 84km | 220km | 340km | 重点 |
| 道路上の電線類を地中に埋設した道路延長 | km | 45km | 80km | 110km | 重点 |
| バリアフリー住宅率 | % | 2.5% | 10.0% | 25.0% | |
| 3. 維持管理の充実 | | | | | |
| 福島県道路愛護会参加団体数 | 団体 | 1,975 | 2,025 | 2,075 | |
| 河川愛護活動参加者数 | 千人 | 197千人 | 220千人 | 240千人 | |
| 4. 危機管理対策の強化 | | | | | |
| 氾濫区域提供市町村数 | 市町村 | 5 | — | 52 | |
| 緊急輸送路において耐震対策が必要な橋の解消状況 | % | 18% | 36% | 54% | |
| 県有建築物の耐震診断実施数 | 件 | 226件 | 390件 | 390件 | |

第3節 個性と魅力あふれる美しいまち（地域）づくり

| 指 標 名 | 単位 | 現 状 (H12) | 目標指数 | | うつくしま 21の指標 |
|-------------------------------------|-------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|----------------|
| | | | 中間年度 (H17) | 目標年度 (H22) | |
| 1. 自然・景観との調和（環境との共生） | | | | | |
| 水と親しめるふくしまの川づくり箇所数 | 箇所 | 45 | 55 | 65 | |
| 緑地等面積*1 | m ² /人 | 19.9m ² /人 | 22.4m ² /人 | 24.6m ² /人 | 重点 |
| 2. 環境負荷を軽減させる施策の推進（循環型社会の形成） | | | | | |
| 猪苗代湖の水質保全目標達成率（現状はH11） | % | 33.3% | 100.0% | 100.0% | |
| アスファルト塊・コンクリート塊のリサイクル率 | % | 99% | 99% | 100% | |
| 下水汚泥の減量化率 | % | 47% | 80% | 100% | 重点 |
| 既存県営住宅等総合再生計画における改善住宅数*2 | 戸 | 136戸 | 521戸 | 906戸 | |
| 3. 都市部の多様な豊かさを楽しむ施策の推進 | | | | | |
| 交通渋滞箇所の削減 | 箇所 | 66 | 34 | — | |
| 下水道等普及率 | % | 50% | 60% | 80% | 代表 |
| 4. 豊かな自然環境と共生した中山間地域の施策の推進 | | | | | |
| 土砂災害の危険から保全した住宅戸数（再掲） | 戸 | 11,601戸 | 12,500戸 | 13,400戸 | |

第4節 施策展開の仕組みづくり

| 指 標 名 | 単位 | 現 状 (H12) | 目標指数 | | うつくしま 21の指標 |
|---------------------------------|----|--------------|---------------|---------------|----------------|
| | | | 中間年度 (H17) | 目標年度 (H22) | |
| 1. 住民参加のしくみづくり | | | | | |
| ともに考えとものつくる川づくりのための組織数 | 組織 | 10 | 30 | 46 | |
| 2. マネジメントサイクルの確立 | | | | | |
| 公共事業評価システムによる評価事業数 | 件 | 102件 | 200件 | 300件 | |
| 公共工事コスト縮減率*3（中間目標年度はH14） | % | 6.6% | 8% | — | |
| 3. 技術の向上と人材育成（高度情報化への対応） | | | | | |
| 建設CALS/ESの稼働率 | % | 0% | 10% | 100% | |

*1：緑化等面積：都市計画区域内の都市公園面積、風致地区面積、緑化保全地区面積の合計を都市計画区域人口で除したものです。

*2：既存県営住宅等総合再生計画とは、平成12年度に策定したもので、既存の県営住宅等ストックの有効活用を図るため、建替、改善等の各種整備内容、計画、修繕を含む適切な維持管理について定めたものです。

*3：中間年度（H17年度）の値は、14年度における目標値です。

指標の性格

本計画における指標は、社会実験的なアプローチとして試行的に導入したもので、平成17年度及び平成22年度における努力目標を示しています。

なお、今後の進行管理の中で、経済社会情勢の変化を考慮し、より県民の視点に立った新しい指標の導入を含めて、適宜修正していくこととします。

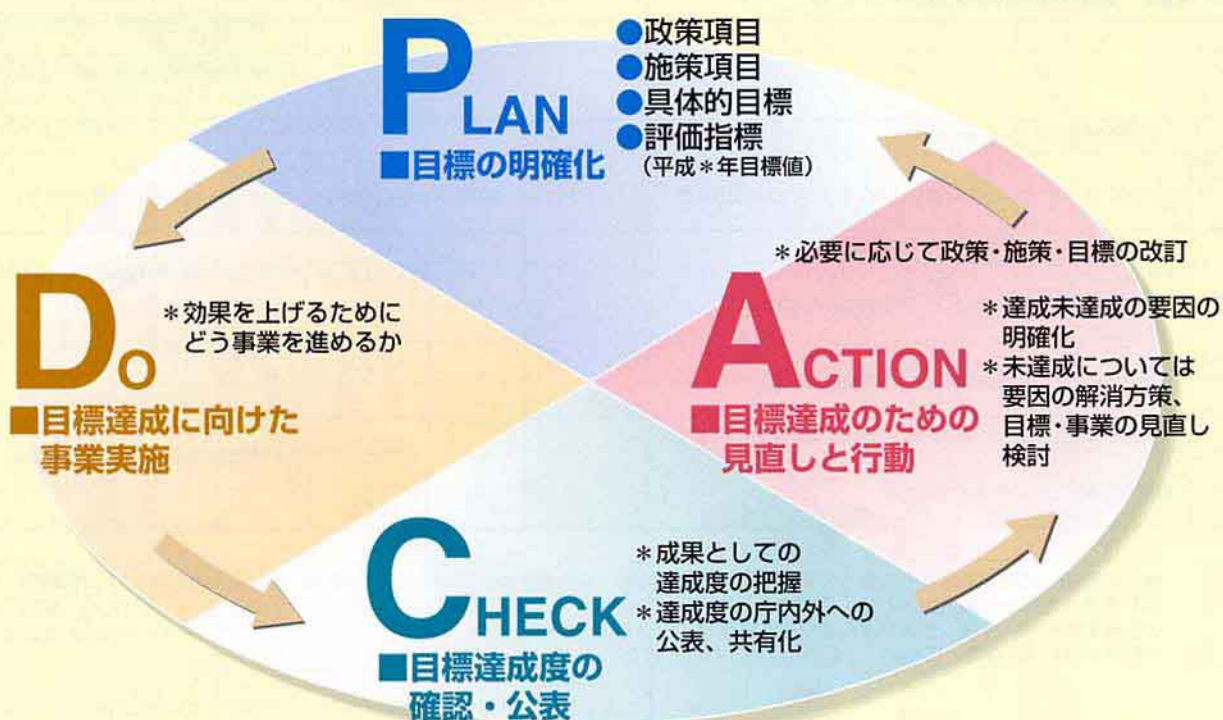
進行管理

住宅・社会資本の整備は県民生活に関わりの深い様々な施策に関連しています。社会経済情勢の変化に柔軟に対応できるよう、事業の優先順位を明確にし、重点的・効果的に投資することにより、県民生活に欠くことができない事業については着実に進めることとしています。

そのため、各事業の展開に当たっては、本計画に定めた各施策に対する効果を分析・評価するとともに、本計画に掲げた指標（目標）を達成するため、毎年進行状況を管理していきます。

県民のニーズに対応するために

Planプラン→Doドゥ→Checkチェック→Actionアクションの仕組み



うつくしま未来博の理念の継承

「美しい空間 美しい時間」をテーマに、2001年7月7日に開幕した「うつくしま未来博」は、多くの人々の心に大きな希望と感動を残し、9月30日に幕を閉じました。

本県初のジャパンエキスポ「うつくしま未来博」は、まさに森の宝島、かけがえのない多くの宝物を、私たちの心に残してくれました。

「うつくしま未来博」のメッセージ

「自然との共生」 「循環の理念」 「参加と連携による地域づくり」

「21世紀建設館」では21世紀のふくしまにおける一つのビジョンとして「“森”と融合する21世紀のまち～森にしずむ都市～」をテーマに、“21世紀のまち”を体験してもらう展示演出を行い、その背景にある建設の新しい考え方を提示しました。

“森”と融合する21世紀のまち～森にしずむ都市～の視点

- ◆ 「水の循環を支える」
- ◆ 「環境共生」
- ◆ 「未来の暮らし」

“森”と融合する21世紀のまちを支える7つのテーマ

- ◆ 「水の循環を守る技術」
水の生態的な役割の保全、再生と防災性の両立を目指す水循環構造の保全技術
- ◆ 「生態ネットワークを守る技術」
生物の生息環境を分断せず、またその多様性を保つための、エコロジカルネットワークの考え方とそれらを実現する技術
- ◆ 「環境への負荷の少ない交通体系」
誰もが移動を安心、快適に楽しめる時代への展望と、ヒューマンなまちの構造への再編を担う新しい道路交通システム
- ◆ 「地理情報情報システムの活用技術」
様々なレベル、方面の立地環境条件を読み解き、ランドデザインを描くことを可能とする情報データベースとその活用技術
- ◆ 「環境共生住宅の技術」
森と共に住まい、地球環境を守るサステナブルな住まいと暮らしを支える住宅づくりの技術
- ◆ 「環境低負荷型の新技術」
非化石エネルギーを生かした地域単位でのエネルギー供給技術や、各種リサイクル可能な素材の活用技術
- ◆ 「ユニバーサルデザイン」
身障者、高齢者、健常者など区別なく誰もが分け隔てなく使える、通れる、住めるように、設計、デザインされたまち、道路、公園、家などの技術

21世紀における新しい都市の理念

- ◆ 「森にしずむ都市」
人と自然それぞれに望ましい環境をつくり上げ、新しい関係の構築を目指します。
- ◆ 「人間サイズ都市」
一人ひとりが人間らしく、快適なライフスタイルを実現できる生活空間の構築を目指します。
- ◆ 「サステナブル都市」
将来にわたり持続的な成長を可能とする資源循環型の効率的な都市運営を目指します。
- ◆ 「自立・交流都市」
性別、世代、国籍や職業などを超えて、ともに行動することが可能な活力ある都市環境の形成を目指します。
- ◆ 「分権型都市」
都市に生活する一人ひとりが都市の運営に参加、選択し、関与していくことを目指します。

このような理念や考え方を継承し、事業を展開していきます。



県北地域



吾妻・安達太良山系や阿武隈の山並み、果樹王国ふくしまに代表される豊かな自然の恵みを楽しみながら、教育・文化・行政の高次都市機能の集積や、県内有数の工業集積を生かした質の高い知的創造活動が展開される学術文化交流圏の形成をめざします。

自然の恵みと都市の魅力が調和した学術研究文化交流圏

地域の将来像の実現に向け、都市では学術研究文化交流機能の向上、また周辺部では自然環境の維持、保全的活用、環境と調和した治山・治水事業の推進等を図り、さらに、これらをネットワークする基盤整備を促進させることにより、経済・文化面で本県をリードする圏域形成をめざし、次の視点から県北地域の住宅・社会資本の整備を進めます。

- (1) 広域の連携、交流の促進強化
- (2) 自然環境に配慮した、安全・快適な社会資本の整備
- (3) 快適でやさしいまちづくり

| 地域整備の代表的な指標 | 単位 | 現状 (H12) | 中間年度 (H17) | 目標年度 (H22) |
|-----------------------|----|----------|------------|------------|
| 1 渋滞ポイントの対応必要箇所数 (残数) | 箇所 | 13 | 9 | — |
| 2 河川改修率 | % | 47% | 50% | 52% |

| 地域整備の代表的な指標 | 単位 | 現状 (H12) | 中間年度 (H17) | 目標年度 (H22) |
|-----------------------|----|----------|------------|------------|
| 3 道路上の電線類を地中に埋設した道路延長 | km | 3km | 6km | 7km |
| 4 やさしさマークを取得した既存県有施設数 | 棟 | 6棟 | 13棟 | 19棟 |

県中地域



猪苗代湖から阿武隈高地に至る豊かな自然と調和した都市機能・生活機能の整備充実を図り、新しい産業や文化を創出するとともに、整備の進む高速交通体系を生かした多様な連携・交流を通じ、国内外とのネットワーク形成を図る先導的地域をめざします。

恵まれた自然と多様な都市機能が調和した産業国際交流圏

地域の将来像の実現に向け、地域に住む人々が地域内外の多様な都市機能をより快適に・安全に享受できるよう、交流基盤ならびに生活基盤の充実を図ります。

さらに、いきいきと充実した生活から新しい文化や産業が創出され、国内外との様々なネットワークが展開される地域をめざし、次の視点から県中地域の住宅・社会資本の整備を進めます。

- (1) 心豊かなライフスタイルが展開できる地域の形成
- (2) 産業拠点地域と国際・交流圏域の形成
- (3) 都市機能の充実強化と地域内連携・交流の促進

| 地域整備の代表的な指標 | 単位 | 現 状 (H12) | 中間年度 (H17) | 目標年度 (H22) |
|---|----|--------------|---------------|---------------|
| 1 渋滞ポイントの対応必要箇所残数 (解消効果) | 箇所 | 7 | 4 | — |
| 2 高齢者や障害をもった人が安心して通れるように段差等を改善した歩道の整備延長 | km | 30km | 40km | 56km |

| 地域整備の代表的な指標 | 単位 | 現 状 (H12) | 中間年度 (H17) | 目標年度 (H22) |
|-----------------------|----|--------------|---------------|---------------|
| 3 道路上の電線類を地中に埋設した道路延長 | km | 6km | 11km | 13km |
| 4 やさしさマークを取得した既存県有施設数 | 棟 | 0棟 | 3棟 | 8棟 |

県南地域



高速交通体系によって首都圏と短時間で結ばれているという恵まれた条件を生かして、広域的な交流を一層促進し、美しい水面に象徴される、きらめく源流域の自然環境と産業・経済が調和した、心の豊かさと潤いに満ちた生活圏の形成を目指します。

きらめく自然とうるおいのあるくらしが調和した源流交流圏

地域の将来像の実現に向け、自然環境に配慮しながら治水整備など安全対策を進め、地域住民にとって快適な生活道路・市街地の整備、有利な交通アクセスを生かして、茨城県、栃木県と一体的な交流圏「F I T シンフォニー圏」の形成や、21世紀にふさわしい豊かな生活が展開できるゆとりある空間の創出を図るため、次の視点から県南地域の住宅・社会資本の整備を進めます。

- (1) 源流域の豊かな自然を保全し、災害のない安心して生活できる社会基盤の整備
- (2) 広域的な主要幹線道路の整備と、高速交通体系へのアクセス性の向上
及び地域内幹線道路や生活道路の整備
- (3) 個性と魅力あるまちづくり・地域づくり

| 地域整備の代表的な指標 | 単位 | 現 状 (H12) | 中間年度 (H17) | 目標年度 (H22) |
|------------------|----|--------------|---------------|---------------|
| 1 渋滞ポイントの対応必要箇所数 | 箇所 | 3 | 1 | — |
| 2 河川改修率 | % | 40% | 43% | 44% |

| 地域整備の代表的な指標 | 単位 | 現 状 (H12) | 中間年度 (H17) | 目標年度 (H22) |
|---|----|--------------|---------------|---------------|
| 3 高齢者や障害をもった人が安心して通れるように段差等を改善した歩道の整備延長 | km | 23km | 49km | 79km |
| 4 やさしさマークを取得した既存県有施設数 | 棟 | 1棟 | 6棟 | 7棟 |

生活圏域別計画の概要

会津地域



磐梯山、猪苗代湖に代表される美しい自然の中で産学連携による高度先端技術の集積が進み、歴史や伝統文化を大切に人々の心があふれた美しいまちを、さまざまな人々との交流が彩る質の高い歴史文化交流圏の形成をめざします。

美しい自然と高度先端技術が調和した質の高い歴史文化交流圏

地域の将来像の実現に向け、地域の個性を支える豊かな自然環境を保全し、地域住民の快適な日常生活を支える生活基盤や、都市機能の充実強化を図り、同時に広域的なアクセス機能を向上させ、高度技術産業・情報関連産業の集積を推進するため、次の視点から会津地域の住宅・社会資本の整備を進めます。

- (1) 磐越道自動車道を横軸に、会津縦貫道路を縦軸とする、広域高速交通網の整備による地域間交流の促進
- (2) 先端技術や観光産業の振興による自立的経済圏・定住できる基盤づくりの形成
- (3) 自然環境や歴史的資源、伝統文化を活かした観光リゾート地域の形成

| 地域整備の代表的な指標 | 単位 | 現状 (H12) | 中間年度 (H17) | 目標年度 (H22) |
|-----------------|----|----------|------------|------------|
| 1 渋滞ポイントの解消状況 | 箇所 | 9 | 4 | — |
| 2 冬期交通不能区間の解消状況 | 箇所 | 26 | 26 | 25 |

| 地域整備の代表的な指標 | 単位 | 現状 (H12) | 中間年度 (H17) | 目標年度 (H22) |
|-------------------------------|----|----------|------------|------------|
| 3 雪を融かすことができる歩道の延長 (無散水) | m | 6,600m | 9,900m | 13,200m |
| 4 道路上の電線類を地中に埋設した道路延長 (県管理道路) | km | 2km | 7km | 10km |

南会津地域



尾瀬をはじめとする豊かな自然の中で培われてきた、ふるさとへの愛着と誇りに満ちた人々のうるおいと活力あるくらしや、風土色豊かな伝統文化、素朴な農村の佇まいが醸し出すふるさとの原風景が、ゆとりとやすらぎを求める多様な交流を生み出し、そこから新たな定住への扉が開かれる癒しの定住・交流圏の形成をめざします。

豊かな自然と人々のくらしが調和した癒しの定住・交流圏

地域の将来像の実現に向け、自然の豊かさを保全しながら、地域住民が冬期間でも安全で安心して快適に暮らせる癒しの定住圏づくり、首都圏に近接している立地条件を活かした農林業や地場産業をはじめ観光産業等の拡大を促進するための広域ネットワークの整備、さらに地域資産を活かした多彩な広域交流を促進するため、次の視点から南会津地域の住宅・社会資本の整備を進めます。

- (1) 生活の便利さと地域のにぎわいを高める広域交流基盤の整備
- (2) 安全で快適な活力ある生活を支える生活基盤の整備
- (3) 豊かな自然資源を活用した産業振興の支援と自然環境に配慮した基盤整備

| 地域整備の代表的な指標 | 単位 | 現状 (H12) | 中間年度 (H17) | 目標年度 (H22) |
|-------------------|----|----------|------------|------------|
| 1 雪崩危険箇所整備率 | % | 16% | 27% | 38% |
| 2 冬期交通不能区間数(解消状況) | 箇所 | 16 | 15 | 13 |

| 地域整備の代表的な指標 | 単位 | 現状 (H12) | 中間年度 (H17) | 目標年度 (H22) |
|---|----|----------|------------|------------|
| 3 高齢者や障害を持った人が安心して通れるように段差等を改善した歩道の整備延長 | km | 7km | 12km | 25km |
| 4 やさしさマークを取得した既存県有施設の数 | 棟 | 0棟 | 3棟 | 4棟 |

相双地域



高まる交流機能と魅力ある地域資源を生かし、地域内外との緊密な連携と多面的な交流を図りながら、太平洋から阿武隈高地に至る輝く自然との共生の中で、ゆとりある暮らしと特色ある産業が調和した快適交流圏の形成をめざします。

輝く自然と特色ある産業が調和したゆとりのある快適交流圏

地域の将来像の実現に向け、高規格幹線道路の整備と、各ICと主要幹線を結ぶアクセス道路の整備による地域内外拠点間のネットワークを強化し、連携・共生型の圏域を形成するとともに、安全でゆとりある生活環境の整備、広域的物流拠点の整備充実を図るため、次の視点から相双地域の住宅・社会資本の整備を進めます。

- (1) 交流ネットワークの構築 (2) 安全な県土の実現 (3) ゆとりある生活環境の実現 (4) 広域物流拠点港湾、水産業を支える漁港の整備

| 地域整備の代表的な指標 | 単位 | 現 状 (H12) | 中間年度 (H17) | 目標年度 (H22) |
|--------------------------|-----|--------------|---------------|---------------|
| 1 高速ICまで30分以内でアクセス可能市町村数 | 市町村 | 2 | 5 | 12 |
| 2 河川改修率 | % | 50% | 53% | 55% |

| 地域整備の代表的な指標 | 単位 | 現 状 (H12) | 中間年度 (H17) | 目標年度 (H22) |
|---|----|--------------|---------------|---------------|
| 3 高齢者や障害をもった人が安心して通れるように段差等を改善した歩道の整備延長 | km | 5km | 23km | 47km |
| 4 やさしさマークを取得した既存県有施設数 | 棟 | 1棟 | 3棟 | 3棟 |

いわき地域



整備が進む高速交通体系や小名浜港、ふくしま海洋科学館（アクアマリンふくしま）などの特色ある拠点施設等を生かした地域内外の連携と交流を深めるとともに、東日本沿岸部における中核都市圏にふさわしい高次な都市機能の集積を図りながら、森・川・海が創り出す多彩で豊かな自然の中で、ゆとりとうるおいのある快適な暮らし、活力ある産業が調和した海洋文化圏の形成をめざします。

多様な自然と快適な暮らし、活力ある産業が調和した海洋文化交流圏

地域の将来像の実現に向け、広域的な連携・交流を図る常磐・磐越自動車道の整備促進を図るとともに、広域ネットワークの要衝となる国際的な物流拠点や、個性豊かな観光課拠点の形成、さらに住民が参画し官民が一体となった豊かな自然環境と調和した快適なまちづくりのため、次の視点からいわき地域の住宅・社会資本の整備を進めます。

- (1) 地域間交流基盤の整備 (2) 多彩な自然環境の維持・質の向上 (3) 災害に強いまちづくりの整備 (4) 個性豊かな都市基盤の整備

| 地域整備の代表的な指標 | 単位 | 現 状 (H12) | 中間年度 (H17) | 目標年度 (H22) |
|---------------|----|--------------|---------------|---------------|
| 1 河川改修率 | % | 45% | 48% | 50% |
| 2 都市計画道路の整備延長 | km | 94km | 98km | 102km |

| 地域整備の代表的な指標 | 単位 | 現 状 (H12) | 中間年度 (H17) | 目標年度 (H22) |
|---|----|--------------|---------------|---------------|
| 3 高齢者や障害をもった人が安心して通れるように段差等を改善した歩道の整備延長 | km | 13km | 30km | 52km |
| 4 やさしさマークを取得した既存県有施設の数 | 棟 | 1棟 | 2棟 | 3棟 |



うつくしま、ふくしま。

ふくしまイメージデザイン

福島県では、将来イメージを「21世紀の新しい生活圏—美しいふくしま—の創造」とし、その実現を目指し“うつくしま、ふくしま。”県民運動が行われています。

ふくしまイメージデザインは、この将来イメージを花にたとえて表現したもので、県内外に積極的なコミュニケーション活動を進めるための基本デザインとしてつくられました。



県の花

ネモト・シャクナゲ
(ヤエハクサンシャクナゲ)

「ネモト・シャクナゲ」は北海道、本州北中部の高山帯から亜高山帯にはえるツツジ科の常緑低木で、本県では吾妻山、安達太良山に群生します。高さは1～3mで、花は白色か紅色、花冠の内部にさらに花冠が生じ、ときには三重のものも見られます。きびしい風雪にたえて咲く、気高い美しさを備えています。



県の鳥

キビタキ

「キビタキ」は4月から10月末にかけて渡来し、低山帯から上部の落葉広葉樹のうっそうとした自然林に好んで生息します。雄はオレンジ、黒、黄色をおびあざやかな色彩とともにすばらしい美声で鳴きます。メスは地味な色彩です。森林に発生する害虫を好んで食べ、福島県の豊かな緑を守る役目も果たしています。



県の木

ケヤキ

「ケヤキ」は九州の一部と北海道を除く、日本全土に分布し県内にも広く分布しているニレ科の落葉高木です。陽のあたる場所を好み、成長が早く、寿命が長いのが特徴で、県内各地で大木が見られ、名木として県民に親しまれています。

福島県土木部